

十勝岳

1 概況（平成 15 年 2 月）

8 日と 25 日に火山性微動が観測されました。特に 8 日の微動は、1988～89 年の噴火活動後では最も大きい規模で、噴煙の状況が悪天のため不明であったことから「噴火の可能性」を考慮し臨時火山情報を発表しました。北海道の協力で 8 日の微動発生後に実施した上空からの観測では、火口内および周辺に降灰などは認められなかったことから、噴火はなかったと判断しました。なお、微動の発生前後で地震活動の状況に変化はありませんでした。

2 噴煙活動の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いており、噴煙高度は概ね火口上 200m 前後で推移しました。24 日には、一時的に 800m の高さに達しましたが、この日は上空の風が弱く、湿度が高かったことから気象の影響と考えられます。

3 地震活動の状況

8 日 08 時 11 分頃から継続時間約 37 分間の微動が観測されました（最大振幅は H 点で 0.36 μm ）。また、25 日 19 時 32 分頃から継続時間約 21 分間の微動が観測されました（最大振幅は H 点で 0.1 μm ）。8 日の微動は、1988～89 年の噴火活動後では最も大きい規模でした。微動の発生源などは不明ですが、地下の熱水活動が一時的に活発化したことが原因と考えられます。微動の発生は 2001 年 9 月以来です。なお、地震は 8 日の微動の中に 18 回混在して発生しましたが、それ以外は 1 日あたり 0～5 回と特に変化はありませんでした。

月別地震・微動回数

2002～2003 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
地震回数H点	34	30	28	14	28	28	113	96	47	54	93	58
地震回数A点	10	10	10	4	5	11	21	13	15	11	15	16
微動回数H点	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2

4 地殻変動の状況

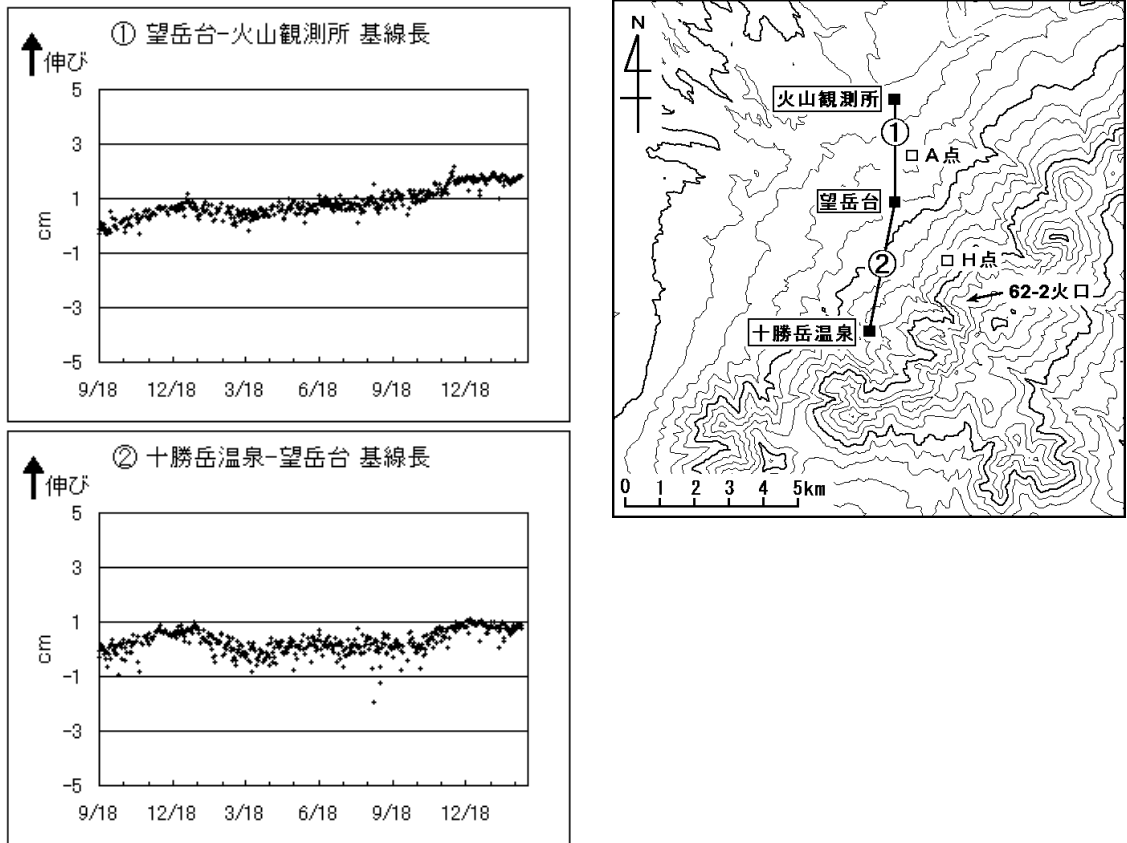
G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。

5 上空からの観測結果

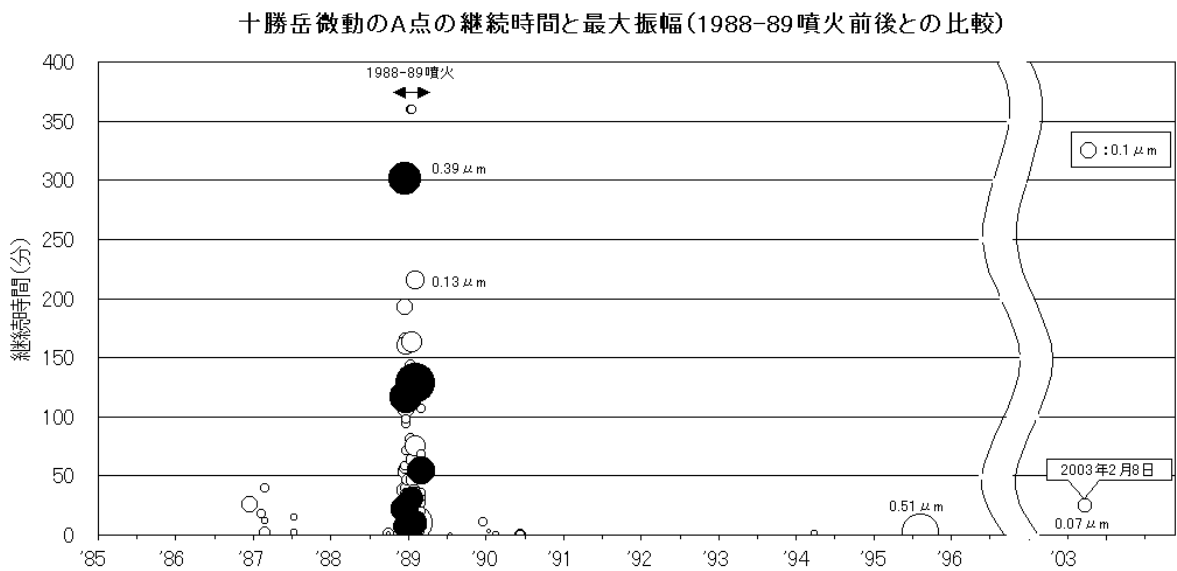
北海道の協力により 2 月 8 日の微動発生後に実施した上空からの観測では、62-2 火口の噴煙は白色で特に変わった様子はなく、火口内および火口周辺に降灰・噴石などは認められませんでした。また、周辺の地熱域（振子沢噴気孔群、62-0 火口、62-1 火口、大正火口、旧噴火口など）にも異常はありませんでした。

6 火山情報発表状況

発表日時	火山情報名	概 要
2.8 08:35	臨時火山情報第 1 号	微動の発生、噴火の可能性あり、噴煙の状況不明
2.8 10:00	火山観測情報第 1 号	聞き取り調査の結果降灰なし、地震微動の状況
2.8 13:20	火山観測情報第 2 号	上空からの観測結果降灰なし、地熱の状態に変化なし
2.8 15:20	火山観測情報第 3 号	噴火なし、地震・噴煙の状況



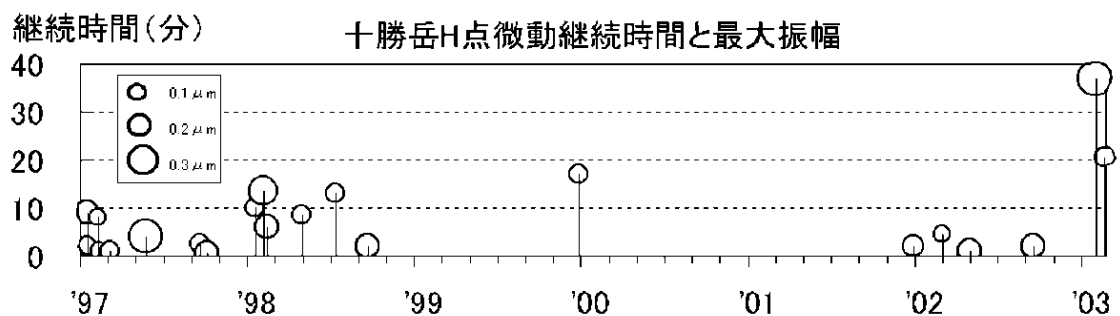
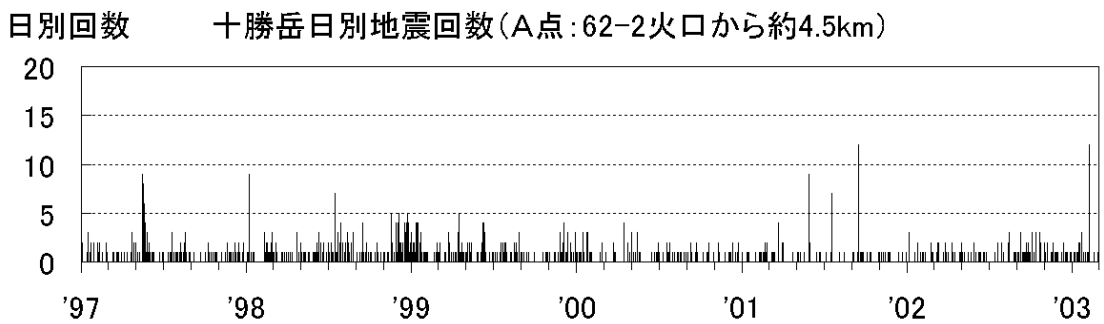
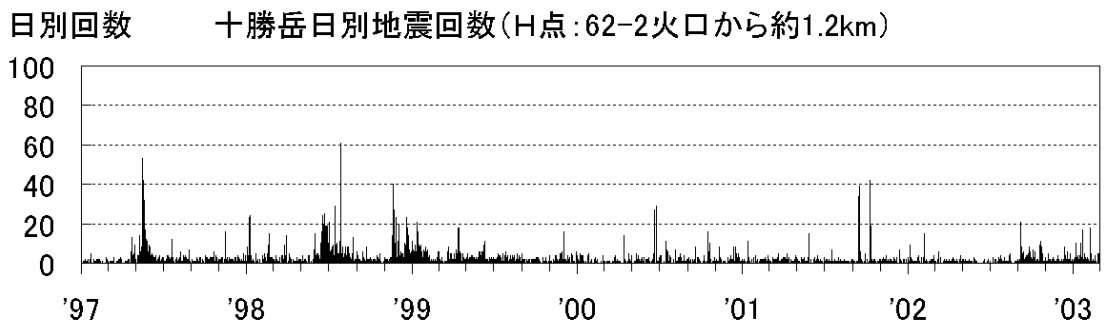
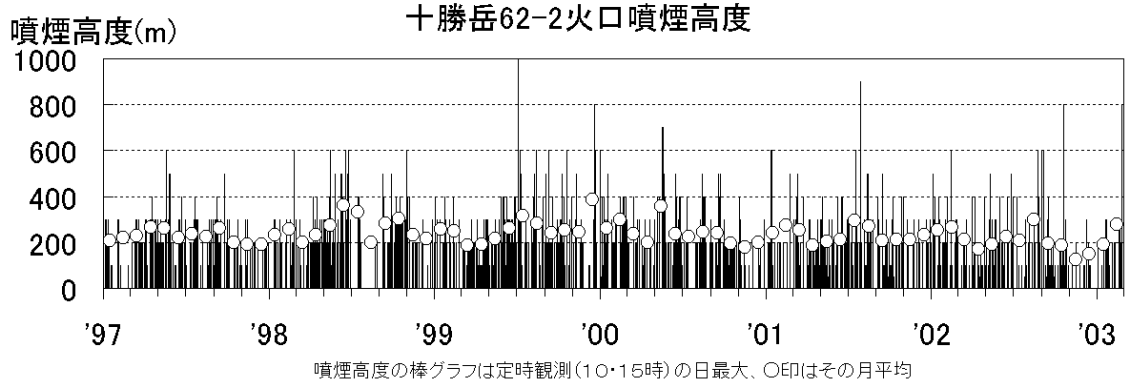
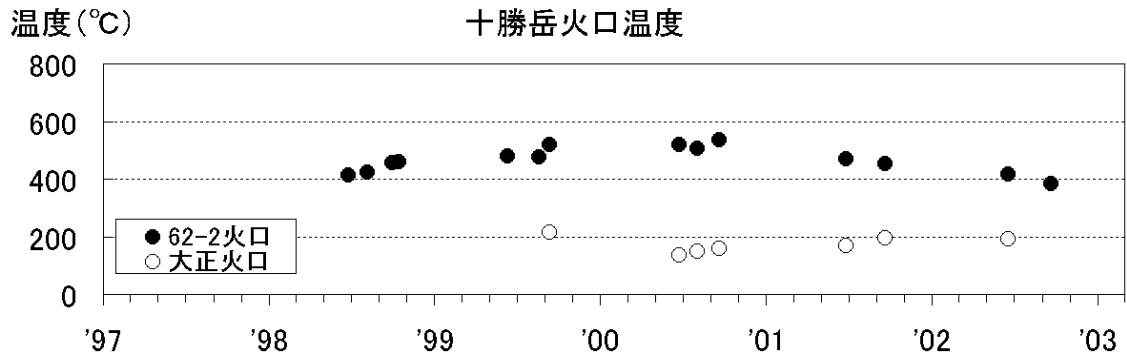
十勝岳基線長変化 (2001年9月18日～2003年2月28日)



十勝岳 A 点における微動継続時間と最大振幅の比較 (1985 年 1 月 1 日～2003 年 2 月 28 日)

●は噴火時、○は非噴火時を表す。

2003 年 2 月 25 日の微動は、A 点では確認できない程度の小規模な微動



十勝岳火山活動経過図 (1997年1月1日~2003年2月28日)